

第44回 経営協議会議事録

日 時 平成25年3月18日（月）14時～15時30分

場 所 事務局棟3階共通会議室

出席者 山本学長

赤木委員、檜畑委員、柏原委員、松原委員、南委員

池際、平田、島村各理事

（中村監事、天野副学長、池際副学長、川本教育学部長、遠藤経済学部長、木村システム工学部長、山田観光学部長、多企画調整役、千葉総務課長、吉井財務課長）

欠席者 帯野理事

（乗杉副学長）

学長から、第40回（11月30日）、第41～43回（書面審議）の議事録について、意見等の有無について確認があり、了承した。

議 事

1. 平成25年度和歌山大学年度計画について

平田理事から資料1に基づき説明があり、審議の結果、了承した。なお、以下の意見交換があった。

○教員は公募か、社会人（実務家）教員はいるか、その評価はどうか。

→基本的に全て公募、専門教育では社会人教員の豊かな経験が生かされている。

○寄付金を倍増するという計画についての具体案はあるか。

→同窓会組織を通じてのお願いを想定している。少額でも継続的に寄付してくれる方がいればいいと考えている。

○基金の用途を明らかにし、成果を常に知らせ、新たな寄附の動機付けを行うことが必要。社会で活躍する同窓生を講演会に招くなどをして同窓会に参加する人数を増やす方策を考えることも必要。

→共通一次試験以降の世代は大学への帰属意識が希薄になりつつあると感じていて、クラブなどの同窓会を軸にした呼びかけが必要と考えている。また、師範学校、高等商業学校からの歴史を自校史としてまとめる作業をすすめている。

○教育学部附属学校の同窓会は連携が強いので、同窓会に含めた方がいい。

○年度計画は外部からみると、まだコップの中の議論の域を脱し切れていないと思う。総体的にどうするかという観点も必要。受験生の評価が一番重いメルクマーだろうし、卒業生が気にするのは大学の相対的な地位だろう。

○教員活動状況評価の結果を改善に結び付ける方策についての具体策はあるか。

→研究費へのインセンティブ制度の活用を考えている。評価制度と並行して、昇任予定教員と役員の面談を実施し、教育研究の内容、全学ミッションへの貢献などについての意見交換を行い、個々の教員の意欲を引き出す方策を考えている。
2. 平成25年度学内予算編成について
島村理事から資料2に基づき説明があり、審議の結果、了承した。なお、以下の質疑応答があった。
○運営費交付金の獲得にどのような努力をしているか。
→特別な事業への応募が主となるが、寄付金、外部資金の獲得にも努めている。
○保育所を設置している大学もあると思うが、単なる両立支援でなくて多様な学生を呼び込むことに繋がると思うがいかがか。
→子育てをする学生を学内で支援した実績はあるが、保育所として設置するほどのニーズにはなっていない状況にある。
○外部からは、職業教育などの実学分野が理解されやすい。教育学部の入学辞退率が低いのも、目的がはっきりしているからと考えられる。農学部まではいかないとしても、醤油や味噌や清酒といった発酵工学や果樹など、和歌山県の特徴を生かしたものを作っていく方がいいと思う。
→ミッションの再定義においても、本学がこの地域で存続するためには、地域の強み、特徴を活かし、地域から依存される存在になる必要と考えていて、組織の再編成も、それらをテーマに含めて検討をすすめている。
3. 銀行等との資金借入契約について
島村理事から資料3に基づき説明があり、審議の結果、了承した。
4. 組織規則等の一部改正について
多企画調整役から資料4に基づき説明があり、審議の結果、承認した。
5. 教職員給与規程の一部改正について
島村理事から資料5に基づき説明があり、審議の結果、承認した。
6. 役員退職手当規程の一部改正について
島村理事から資料6に基づき説明があり、審議の結果、承認した。
報 告
1. 運営費交付金等の内示について

島村理事から資料7に基づき説明があった。

2. 平成25年度における給与の減額措置対応について

島村理事から資料8に基づき説明があった。

最後に山本学長から以下の報告があった。

○平成25年8月から2年間の任期で学長候補者として選任されましたが、4月から2年間と考え、次世代の大学運営を支える理事者層の養成を念頭に4月以降の体制整備をしたいと考えています。

○2011～13年の行動宣言を踏まえ、2013～2015年の行動宣言を策定したいと思います。防災教育研究のネットワーク作り、提案いただいた農に関することなど、和歌山の切実な課題を書き込もうと考えています。また、観光学研究科博士課程の整備、教職大学院も展望した検討作業を進めてまいります。

以 上